第15回 大宮グランドセントラルステーション推進会議
基盤整備推進部会

日時：平成 31 年 2 月 22 日(金) 15:00～17:00

会場：大宮区役所　南館３０１会議室

次　　第

１．開　　会

２．報告事項

（１）第７回大宮 GCS 推進会議について

３．議　　題

（１） 構想実現案について

（２） 道路整備計画の検討状況について

（３） 交通需要マネジメント計画の検討状況について

（４） 駅改良計画の検討状況について

（５） 事業展開等について

４．そ の 他

５．閉　　会

資料3-1

大宮駅グランドセントラルステーション構想

第15回　基盤整備推進部会　討議資料

構想実現案の検討

（1）利用しやすいバスターミナルに向けて
（バス事業者との協議状況）

（１）利用しやすいバスターミナルに向けて（バス事業者との協議状況）

利用者にとって利便性が高く、安全なバスターミナルとしていくため、バス事業者より「バス運行の効率化や利用者の利便性向上」に資する工夫や取り組みについて提案を頂いた。

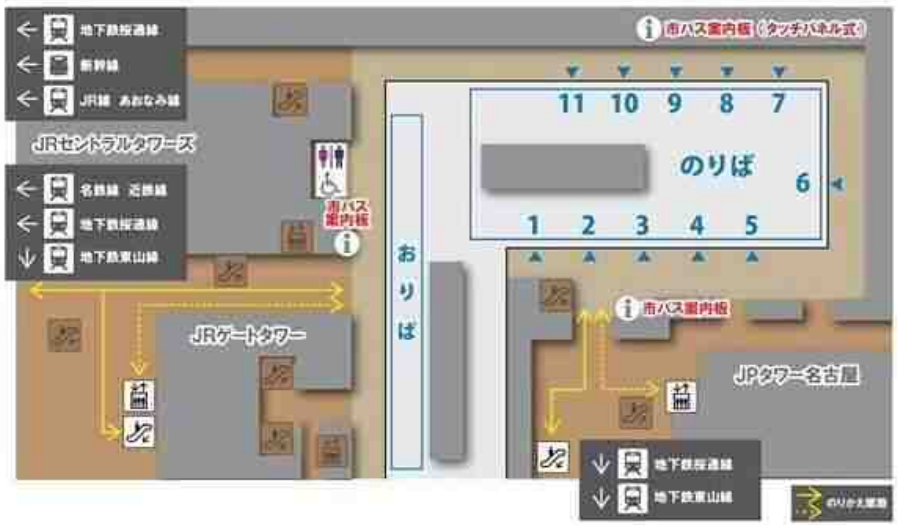
①バス乗り場の工夫

バスバースを効率的に運用するための、分かりやすい案内表示や整列誘導の工夫

- 場所の特性に応じ、ラインを引くなど工夫をしていく。割り込みなど、トラブルに対しては、ガードマンを配置することも考えられる。

事例：名古屋駅バスターミナル

- 11の乗り場に21系統のバスが乗り入れ



※2018年11月8日 第5回合同部会資料 再掲

バスの行き先や発車時刻を示す案内表示板
※1つの乗り場から複数の系統・ルートのバスが乗り入れているが利用者に分かりやすい

行き先別の整列誘導
※混雑時においても、短時間で効率的な乗車が可能

資料：名古屋市交通局HP

（１）利用しやすいバスターミナルに向けて（バス事業者との協議状況）

②情報提供システムの高度化

バス事業者ごとのバスロケーションシステムが統合された、利便性の高いシステム

- バスロケーションシステム：ＧＰＳ等を用いてバスの位置情報を収集し、バス停の表示板やスマートフォン、パソコン等に情報提供するシステム。
- 現在、各事業者が独自にバスロケシステム提供しているが、一本化には費用面が課題。

事例：広島公共交通ナビ「くるけん」

- スマートフォンによる検索サービス「BUSit」では、バス利用者のNFC搭載スマートフォンをNFCタグにかざして、到着するバスを到着順に画面に自動表示
  ※NFC：近距離無線通信
- 複数のバス事業者が参加し、統合化されたシステムにより運用

資料：公益社団法人広島県バス協会HP

（１）利用しやすいバスターミナルに向けて（バス事業者との協議状況）

③バス案内所の整備

バス事業者が共同で利用する、待合室や定期券売り場を備えたバス案内所

- 開発街区内に、商業施設に隣接した案内所が設けられれば、お客様の利便性が高まる。
- 整備に当たっては、整備主体や運営主体、賃料等が課題となってくる。

事例：西武バス所沢駅東口案内所

- 所沢駅の駅ビル内、駅前広場に隣接した位置に西武バスのバス案内所を整備

- 窓口営業時間 8：30～20：00（土日祝日は18：00 まで）
- 待合室開放時間 3：50～23：00

【設備】
- 高速バス乗車券定期券販売窓口
- 車いす対応・主催旅行相談発券窓口
- トイレ、待合スペース、荷物預かり用バゲッジポート
- 多言語対応高速バス券売機（今後予定）
- デジタルサイネージ

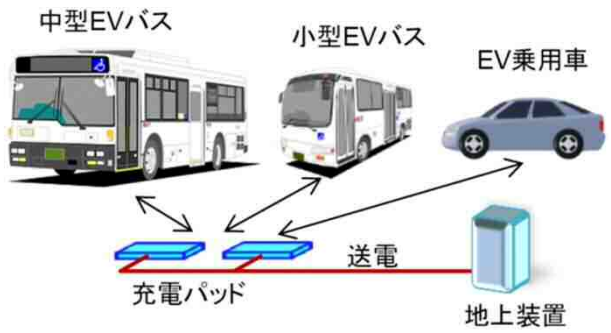
（１）利用しやすいバスターミナルに向けて（バス事業者との協議状況）

④次世代型バスターミナル

EV（電気自動車）、FCV（燃料電池自動車）等の普及に対応した
次世代型バスターミナル

- EVバスが普及すれば、バスバースに非接触給電設備を埋め込む等、エネルギー供給も可能なバスバースの整備が考えられる。
- EVバスや燃料電池バス等の蓄電池を災害時の非常用電源として活用できれば、地域の防災性強化にもつながる。

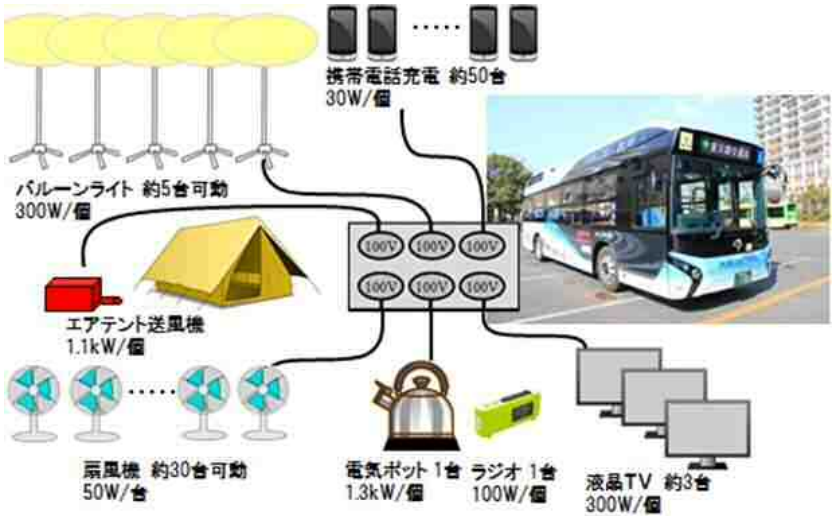
事例：ワイヤレス充電バスの実証研究



資料：環境省HP

事例：燃料電池バスによる災害時の電源供給

- 燃料電池バスを移動式非常用電源として避難所などで活用する協定を、都営バスと江東区が締結



資料：東京都HP

（１）利用しやすいバスターミナルに向けて（バス事業者との協議状況）

⑤新たな運行システム

自動運転やAI・IoT等の活用した新たな運行システム

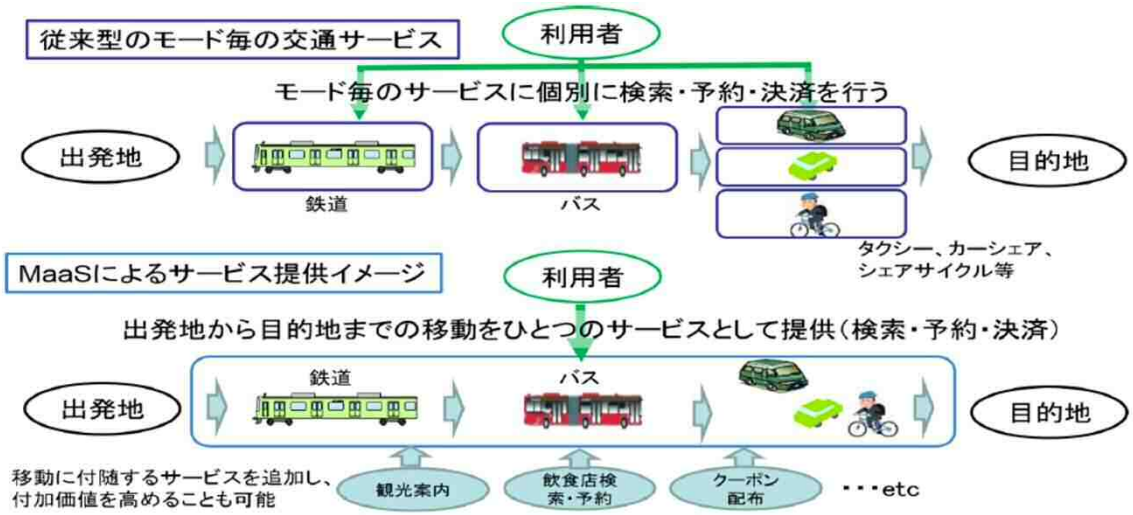
【自動運転】
- 運行の効率化により、バスが小型化し、台数が増える可能性がある。
- 但し、バス運行への影響について、業界の見方は一致していない。

【料金収受】
- ５G回線を利用すれば、人が通るだけで料金収受が可能となる。
- 料金収受システムが大きく変わり、時間短縮に繋がる可能性がある。

参考：MaaS (Mobility as a Service) の進展

○出発地から目的地までの移動ニーズに対して、最適な移動手段をシームレスに提供する等、移動を単なる手段としてではなく、利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念

○スマートフォンアプリを用いて、出発地から目的地までの移動手段の検索・予約・決済を一括して行えるサービス等が典型。



資料：都市と地方の新たなモビリティサービス懇談会（国土交通省） 資料

【想定される効果（例）】
- 公共交通の利便者の利便性向上、利用者の増大
- 観光や商業等との連携したサービス展開

（１）利用しやすいバスターミナルに向けて（バス事業者との協議状況）

【バス事業者からのご提案】

①バス乗り場の工夫	・分かりやすい案内表示や整列誘導の工夫
②情報提供システムの高度化	・利便性の高いバスロケーションシステム
③バス案内所の整備	・待合室や定期券売り場を備えたバス案内所
④次世代型バスターミナル	・EV（電気自動車）、 FCV（燃料電池自動車）への対応
⑤新たな運行システム	・自動運転やAI・IoT等の活用

- 交通結節点である大宮駅においては、市民の通勤・通学等の日常利用に加え、観光客等の来訪者にとっても、安全で快適な交通環境を整えることが特に重要。
- 市民の身近な交通手段として、バスを利用して大宮にたくさんの方々に来て頂くとともに、将来的なバス交通のあり方に対応しながら、引き続き、バスサービスや交通広場の検討を進めていく。